

在住外国人への支援に係る本県の主な取組

別添資料

事業名	概要	30年度予算	29年度実績
外国人の子どもの教育の充実			
小中学校における日本語教育適応学級担当教員の配置	外国人児童生徒等に対する指導の充実を図るため、日本語指導が必要な児童生徒の在籍数に応じて、該当の学校へ担当教員を配置している。 指導方法は、個人又は母語別のグループを専用の教室に取り出して一定時間数の特別指導等を担当教員が行う。	2,856,670千円 (433人配置)	391人配置
日本語学習支援基金事業	地元経済界、企業等と協力して造成した「日本語学習支援基金」を活用して、NPOや外国人学校等が行う、外国人児童生徒を対象とした日本語教室に対して、教室運営費等の助成を行う。 《再造成目標額：1.5億円(2分の1を県が出えん)》	31,861千円 (国際交流協会 予算)	日本語教室85教室、 外国人学校6校へ助成
外国人児童生徒日本語教育支援補助金	県内の外国人児童生徒の就学支援等を整備するため、市町村域を越えて外国人児童生徒への就学支援活動を行うNPO等の団体に対して、送迎費等の補助を行う。	8,985千円	4団体 補助額計8,605千円
「外国人児童生徒等による多文化共生日本語スピーチコンテスト」の開催	外国人児童生徒が、自分の思いや考えを日本語で伝えようとする意識の高揚を図るとともに、多文化共生に対する理解の促進を図るため、小中学校等から参加者を募集し、スピーチコンテストを行う。	532千円	79名応募、15名本選参加
外国人生徒等の受入れの入試への配慮	＜外国人生徒及び中国帰国生徒等にかかる入学者選抜＞ 県立高等学校9校において実施。学力検査は、国語、数学及び外国語（英語）の基礎的な内容とし、一般選抜の学力検査とは別に行う。なお、問題の漢字にはルビを付し、外国語（英語）の聞き取り検査は行わない。 面接は個人面接とする。	—	志願者数46人 合格者数26人 (平成30年度入試)
	＜定時制課程前期選抜における外国人生徒等にかかる受検上の配慮＞ 出身中学校長等から「外国人生徒等にかかる受検上の配慮に関する申請書」が提出された入学志願者について、次の措置を取る。 (1) 国語、数学及び外国語（英語）の基礎的な内容である基礎学力検査を行う場合、基礎学力検査については、漢字にはルビを付した問題によって行う。 (2) 面接については、外国人生徒等の事情に配慮しつつ、個人面接を行う。	—	申請者数113人 合格者数101人 (平成30年度入試)
外国人生徒教育支援員の配置	日本語によるコミュニケーション能力が十分身に付いていない外国人生徒が在学する県立高等学校において支援員を設置し、外国人生徒に学習活動や学校生活の支援をする。	34,050千円	対象生徒360人
語学相談員の配置	ポルトガル語・スペイン語・フィリピン語に堪能な語学相談員11人を教育事務所に配置し、外国人児童生徒在籍校へ派遣する。	35,861千円	11人配置
プレスクールの普及	入学前に日本語の初期指導や学校生活の適応指導を行うプレスクールを普及するため、市町村向け説明会を開催する。	73千円	40名参加
日本語初期指導教室の設置	外国人児童生徒が、学校生活を送れる程度の日本語を習得できるように市町村が設置している初期指導教室については、日本語指導に実績のあるNPO団体と連携し、学校における日本語初期指導教室の在り方リーフレットを平成28年度に作成した。それ以降、県内の市町村教育委員会の指導主事が集まる会で紹介するなどの支援を行った。	—	—
「あいち外国人の日本語教育推進会議」の開催	日本語教育を取り巻く状況の把握や意見交換を行うため、外国人の日本語教育に関わるNPO、有識者、経済団体、企業等を構成員とする会議を開催。《2回開催》	415千円	3回開催

在住外国人への支援に係る本県の主な取組

事業名	概要	30 年度予算	29 年度実績
外国人県民が安心して暮らせる環境の整備			
地域における初期日本語教育モデル事業【新規】	外国人県民が、「やさしい日本語」を理解できるレベルになるよう、専門機関の協力を得て、地域の日本語教室と連携した初期日本語教室を実施するとともに、そのための教材作成や人材育成を行う。 《一宮市内で開催》	2,250 千円 (文化庁委託)	—
多文化子育てサロンの設置促進【新規】	乳幼児を持つ外国人保護者の交流の拠点となる「多文化子育てサロン」を設置し、親子で楽しめる企画の実施、言語習得のポイントや母子保健など、子育てに必要な情報の提供を行う。《3か所で開催》	4,182 千円	—
「あいち医療通訳システム」の運営	医療関係団体・大学・県内全市町村とともに設立した「あいち医療通訳システム推進協議会」において、医療通訳者の派遣や養成、電話通訳、紹介状等の翻訳サービスを提供する。	3,353 千円	利用件数 1,782 件
若者・外国人未来応援事業	日本語の能力が不十分なため、就学・就業等が困難な外国人の子供・若者等に対し、学習支援及び相談・助言を実施する。	12,500 千円	日本語学習支援 参加者 12 名
災害多言語支援センターの設置	災害時に市町村・市町国際交流協会の外国人対応を支援するため「災害多言語支援センター」を設置し、翻訳・通訳派遣、電話通訳の各サービスを提供。	1,008 千円	大府市と合同訓練を 実施
外国人労働者に関する憲章の普及促進	「外国人労働者の適正雇用と日本社会への適応を促進するための憲章」を周知するため、企業関係者等を対象としたセミナーを開催。《1回開催》	206 千円	2回開催、延べ 244 名参加
多文化共生の担い手育成			
多文化共生の地域づくり推進事業【新規】	日本人住民と外国人住民の間の架け橋となる「地域多文化コーディネーター」を育成するとともに、地域での外国人受入れに役立つマニュアル等を作成する。《3か所で育成研修を開催》	1,600 千円 (自治体国際化協 会助成金)	—
「多文化共生月間」の実施	11月の「多文化共生月間」に啓発活動を集中的に実施。また、市町村・国際交流協会等が行うイベント等を取りまとめ、ウェブページやフェイスブック等にて周知。	—	広報啓発活動、顕彰 等を実施
「多文化共生フォーラムあいち」の開催	多文化共生社会づくりについて理解と認識を深めるため、有識者による講演等のほか、多文化共生推進功労者及び作文コンクール入賞者に対する表彰式を実施。	531 千円	151 名参加
タウンミーティングの開催【新規】	多文化共生の推進に関わる様々な担い手が、対等な立場で連携・協働するために、それぞれの立場から本県の多文化共生について意見交換をするタウンミーティングを開催。《3か所で開催》	63 千円	—
「愛知県多文化共生推進功労者表彰」の実施	多文化共生社会づくりに長年取り組み、その業績が他の模範となる個人・団体を表彰。	69 千円	2名2団体を表彰
外国人県民あいち会議の開催	外国人県民の視点を生かした地域づくりを行うため、外国人県民から意見や提案をいただく会議を開催し、施策に反映させるとともに、意見等を発信。	53 千円	45 名参加
外国人コミュニティとの意見交換などの実施【新規】	外国人県民の地域活動を促すため、外国人コミュニティにおいてセミナー等を開催。《2か所で開催》	32 千円	—
「あいち多文化共生作文コンクール」の実施	小・中学生を対象に「多文化共生」をテーマとする作文を募集。	64 千円	417 名応募